

就労定着支援事業所の月1回の面談のあり方が問われるケース

圏域 柏 センター名 ビック・ハート柏

氏名	H・S	居住形態		家族同居 GH 単身 その他		
手帳種別及び等級	精神保健福祉手帳 2級	年齢	32歳	性別	男	
成育歴および現在の生活状況	<p>父親、母親、H・Sの3人家族（現在も実家暮らし）。                  将来独り暮らしの希望有。                  父親は定年退職している。                  両親ともに障害への理解はあり、相談も出来ている。                  中・高と卒業し国立の大学の理学部を卒業する。                  25歳ぐらいの時に夜眠れず、朝起きるのが辛くなってしまった。加えて以前から人と違っているなど思うこともあり、自身で調べて通院をしたところアスペルガーと診断を受ける。                  障害者雇用での就労を考え、Z事業所へ通う。                  Z事業所からM社に就職をする。</p>					
就業前の訓練事業所	Z事業所	サービスの種類	就労移行支援事業所	期間	6か月	
就職先	M社		入社日	2016.4.1		
業務内容	経理に所属 一般事務（入力業務）					
就業先企業情報	<p>業種：エンジニアリングソリューション事業                  （機械設計、電気・電子設計、ソフトウェア開発、ケミカルエンジニアリング、解析・評価）                  従業員数：約7700名                  障害者雇用歴：100名以上</p>					
就業前の課題	自身からの発信（困った際の相談事など） 抽象的な指示の理解について					
就労定着支援個別支援計画	-					
課題解消に向けた支援体制						

<p>障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過</p>	<p>就労定着支援事業の支援が終了する3か月前に就労定着支援事業所のZ事業所から連絡があり、ナカボツセンターに登録。ナカボツセンターへの登録をして頂くため、インテーク面談を実施。2か月前より就労定着支援事業担当者と同行で支援を行い、徐々に引継ぎを行った。就労定着支援事業の期支援が終了するタイミングでナカボツセンター主導で支援を行った。</p>
<p>具体的支援経過</p>	<p>R.1.8 定着支援事業所 Z事業所から引継ぎの依頼を受け同行訪問。</p>
	<p>R.1.9 Z事業所と2回目の訪問。定着支援事業所 Z事業所から引継ぎ完了。</p>
	<p>R.1.10 単独での企業訪問を実施。本人から転職を考えているという話が挙がる。なかなか相談しづらかったという話が出ていた。転職についてのメリット、デメリットの話をする。</p>
	<p>R.1.11 企業訪問を実施。メリット、デメリットを伝えたくて転職について考えたところ、現時点では今の会社で働き続けることを選択される。</p>
	<p>R.1.12 企業訪問を実施。新しい業務が増えやりがいを感じている。今後の訪問に関しては6か月ごとの訪問となる。</p>
<p>現在の状況及び支援効果</p>	<p>最初は引継ぎと信頼関係構築のため、1か月に1度支援者が企業に訪問したが、何かあった際にH・Sから連絡を頂けることや、行事にも参加して下さっているので、6か月に1度の訪問となっている。</p>
<p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p>	<p>就労定着支援で月に1度の訪問をZ事業所が実施しており、引継ぎの際に月に1度の訪問を継続してくれるということがあった。 引き継いでから単独で訪問した際に、Z事業所の支援者とは雑談が多く、業務の相談はあまりしていなかったように感じるとH・Sから話があった。就労定着支援事業には月1回以上の面談による支援が求められているが、その支援内容等についての中味の確認も必要となってくるのではないかと。</p>
<p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p>	<p>今後H・Sより生活の面での相談が来た場合サポートを行って頂きたい。</p>